

# 湯本川調節池あずまや

福島県いわき市土木部河川課 技査 藤田 和則

## 1. はじめに

いわき市は、福島県の東南端、茨城県と境を接する、広大な面積を持つまちで、東は太平洋に面して、寒暖の差が比較的少なく、温暖な気候に恵まれた地域です。

地形は、西方の阿武隈高地（標高500～700メートル）から東方へゆるやかに低くなり、平坦地を形成し、夏井川や鮫川を中心とした河川が市域を貫流し、太平洋に注いでいます。

梅や桜が県内で最初に咲き始め、海や渓谷・緑といわき湯本温泉の織り成す豊かな環境が、四季を通じて楽しめ、多くの観光客が訪れるまちです。

## 2. 水辺施設の整備

今回紹介する湯本川調節池あずまやは、二級河川藤原川水系湯本川の中流域に位置する湯本川調節池内に位置し、当該河川は、市南部に位置する湯ノ岳（標高594m）を源として、上流部はほぼ東に向かって流れ、JR常磐線横断後は南に向きを変え、常磐湯本町市街地を流下し、藤原川に合流する流域面積11.28km<sup>2</sup>、流路延長約9kmの二級河川です。

湯本川沿川は、かつての炭鉱の町・温泉地である地域性から古くより市街地化が進み、河岸まで住家が立ち並んでいます。また、本川は鋭角な湾曲部や国道・JR橋梁等の狭小部により、豪雨・出水の際には度々氾濫するため、床上浸水などの大きな被害を引き起こし、地域住民を苦しめている状況にありました。そのため、平成14年度から『湯本川床上浸水対策特別緊急事業』として、河幅の拡大、調節池の設置などの河川改修を行い、平成20年度末に事業が竣工しました。

河川整備にあたり、住民参加型の志向を取り入れ、地域住民自らが河川改修に参画するための市民組織として『特定非営利活動法人湯本川を愛する市民ネットワーク』をつくり、計画策定から維持管理まで携わることとなり、調節池の利活用にあたって、利用者や観光客が休める、調節池内を見渡せる施設の設置要望がありました。

そこで、平成20年度に、施設利用者のふれあいの場、雷雨時の避難場所、猛暑時の休息場所などとして利活用できる施設として、本あずまやを（財）リバーフロント整備センターに（財）日本宝くじ協会の助成を受けて行っている「水辺施設の設置事業」

として整備していただきました。



写真-1 整備当時の湯本川調節池

## 3. 施設説明

本あずまやは、市民組織の方々が、施設利用者の観点に立ち、計画、設計したもので、木造和風で、屋根の幅が縦6.8m、横6.8m、高さ3.5m、材質としては、柱、花隠しは檜を使用し、それ以外の桁や梁などは杉で作られています。あずまやの大きさは、通常のものよりひと回り大きいサイズなのですが、急な雷雨時などに、より多くの施設利用者が退避できるように考えた結果だそうです。

木材の塗装には、超越ウッドコートを採用しており、この塗装方法の特徴としては、木材が塗料と化学反応を起こすことで、木材の持つ香りや風合いを長く保持するとともに、撥水、耐水性に富み汚れが付きにくく、そのうえ温泉水にも強いという特徴を持ち合わせており、湯本駅付近に設置されている他のあずまや等もこの塗装を施しております。

屋根は、ガルバリウム鋼板平葺きで、材質は、アルミニウム・亜鉛合金めっき鋼板で、アルミニウムの耐久性と亜鉛の犠牲防食作用があり、さらには傷などに対しては自己修復作用も併せ持ち、近年、建物の外壁や屋根の材料として、広く使われております。

あずまや内には、ベンチを配し、春には、桜、ツツジ、秋には紅葉など、四季折々の風景を楽しめる空間となっております。



写真-2 水辺施設 湯本川調節池あずまや

#### 4. 整備効果

調節池内の美化活動として、市民、事業者、行政の3者協同による調節池内の除草作業、市民団体が主催し、小・中・高校生らが参加して行われた桜の植樹祭、温泉旅館組合などが主催する紫陽花やコスモスの植樹などが行なわれております。



写真-3 調節池内に植樹された桜



写真-4 堤防敷地に咲くコスモス

また、地域が主催するイベントとして『復活・いわきの伝統行事』と題し、酉小屋※が行われ、地域の人々をはじめ観光客も多数参加し、会場は、当日の寒さを吹き飛ばし、大盛況となりました。



写真-5 『復活・いわきの伝統行事』 酉小屋

今後も、様々な調節池内の利活用計画が立てられており、地域と観光客が一体となった地域活性化のイベント、地域の子供たちを対象としたビオトープなどに触れる環境教育、多目的広場を使用する運動イベントなど、楽しみは尽きず、様々なイベントを本あずまやが、優しく見守るものと考えております。



写真-6 調節池内のビオトープ

※酉小屋(とりごや) いわき地方に伝わる小正月行事。子供会などが主体となり、藁や竹などで小屋を建て、1月6日、7日の深夜、あるいは早朝に正月飾りやお札などと一緒に燃やす正月送りのこと。小屋は田んぼや空き地に建てられ、ボンデンと呼ばれる笹竹が立てられる。小屋内には、神棚が設けられ、正月様や歳徳神が祭られる。酉小屋を燃やした火で、焼いた餅を食べると一年間風邪を引かないといわれる。